Monthly Contents（月刊誌の主な特集記事）

デンタルダイヤモンド／2014．4月号

○実践歯科ライブラリー：歯周治療成功の条件（若林健史・飯野文彦・稲垣伸彦・鎌田征之）

＊若林先生は「治療型歯科医院から予防型歯科医院へ」と題して、歯周治療を成功に導くための「啐啄同時」「カウンセリング」「サービス」について記述。飯野先生は「歯科衛生士と歩む歯科治療」と題して、歯科衛生士が行うセルフプラークコントロールの確立とＳＲＰの重要性について記述。稲垣先生は「歯周治療におけるカウンセリング」と題して、患者さんがセルフケアを行うようになるためのカウンセリング注意点について記述。鎌田先生は「術者に求められる知識と技術」と題して、規格化された口腔内写真・プロービング診査・デンタルＸ線写真の重要性について記述しています。

○歯科臨床　次の一手／少子化時代の小児歯科“乳歯・幼若永久歯の歯内療法”（齊藤正人・倉重圭史）

＊乳歯や幼若永久歯の歯髄反応は成熟した永久歯と異なっているため、その治療に苦慮することが多い。この特集では、①乳歯の生活歯髄切断法②乳歯歯根の解剖学的特徴③乳歯の麻酔抜髄④乳歯の感染根管治療⑤乳歯の抜歯基準⑥幼若永久歯のアペキソゲネーシス⑦幼若永久歯のアペキシフィケーション⑧幼若永久歯のパルプ・リバスクラゼーションについて注意点を記載しています。わかりやすくよくまとまった内容です。

歯界展望／2014．4月号

○パーシャルデンチャーに強くなる！臨床現場から考える義歯のデザイン（藤関雅嗣）

＊シリーズで掲載されているこの企画も今回で４回目となる。今回は上顎両側遊離端欠損症例である。実際の症例について、患者の希望、レントゲン写真、ポケットの検査結果等を提示し、口腔内写真、模型写真をふんだんに載せてわかりやすい参考になる企画だと思われる。

○専門医が実践するエビデンスに基づいた歯内療法　歯髄診断（岡崎勝至）

＊歯髄の不可逆的炎症を早期に発見して、歯髄炎症が根尖歯周組織に波及するのを防ぐことは、根管治療の成功率の向上に重要になる。従って正しい診断が肝要になり、今回の論文は、毎日の臨床の一つの参考になると思う。

ザ・クインテッセンス／2014．4月号

○うつ病患者への正しい向き合い方　歯科医師はうつ病のゲートキーパー（豊島　明）

＊患者さんのＰ（全身状態）Ｄ（歯科的な状態）Ｍ（精神状態）を評価できないとまともな歯科治療ができない時代に突入した。うつ病は生涯疾患率が16%にのぼり、自殺者の約半数はうつ病である。また、糖尿病患者の約20%、心筋梗塞患者の約15～30%がうつ病を発症すると言われている。そこで、歯科医がうつ病の患者に絶対にしてはいけない４か条として①長時間の傾聴：最初から時間を決めておく②いきなり「精神科へ行ったら」：患者は切り捨てられた気分になる③安易な安心感でスルー：患者の言動の些細な変化を見逃さない④むやみに励ます：患者は逆に落ち込むことになる。他うつ病の見分け方なども紹介されている。

○訪問口腔ケア２　食生活の維持改善に関するケア（吉田春陽）

＊摂食・嚥下機能訓練時の三点セット「端坐位・足底接地・軽くうなずく姿勢」は呼吸路の安全性を確保する上でも重要である。端坐位で足底接地によりバランスをとれば、全身の筋肉や関節にかかる重力が深部刺激として中枢に働き、意識レベルを上げることで第一段階の捕食への導入が容易になる。軽くうなずく姿勢は、甲状軟骨の上方への移動距離を短くし、また、口腔を咽頭より低い位置に置くことにより、重力に逆らって意識を集中して嚥下することになる。こうした座位の確立と経口摂取の維持が質の高い在宅ケアにつながると述べている。図や表も添えられてわかりやすい。

日本歯科評論／2014．4月号

○特別企画１／これで解決！　根面う蝕へのアプローチ――「8020運動」で残った歯をいかに守るのか（福島正義　騎馬和歌子　他）

＊「8020運動」の効果で達成者も増加しています。そして多くの歯が残るのと同時に根面う蝕も増加しています。特に高齢者になるにつれ口腔環境が悪化し根面う蝕の多発が予想されます。発見も難しくまた治療も難しい根面う蝕。本特集ではこの特異なう蝕のメカニズムを解明し、どう治療しまたどう予防するかなどを詳しく解説しています。

○特別企画２／ホワイトニングへの新たな視点を探る（真鍋厚史　北原信也　他）

＊ホワイトニングを臨床に取り入れている先生が年々増えていて、定着してきた感があります。患者さんの要望がその主因といえますが、どうやら「ホワイトニングは単なる美容」だけではないようです。ホワイトニングを基礎的・臨床的に理解し、さらには継続的な口腔管理に利用するため是非一読をお勧めします。